

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 —

- ・中国やタイ等で増加することから前年度を上回り史上最高の見込み。

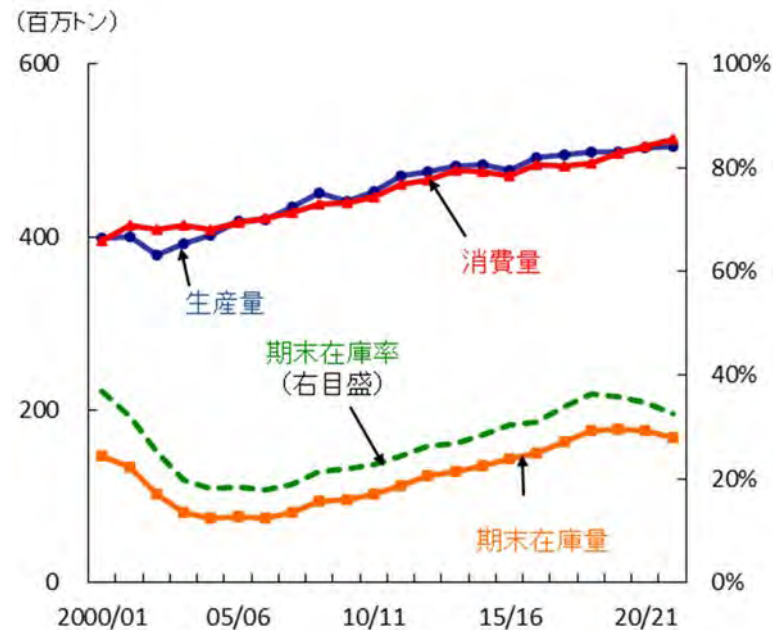
消費量 前年度比 ↑ 前月比 —

- ・中国やインド等で増加することから前年度を上回り史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 —

- ・インド等で減少も、タイ等で増加することから前年度より増加の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 —



資料：USDA「PS&D」（2021. 5. 12）をもとに農林水産省にて作成

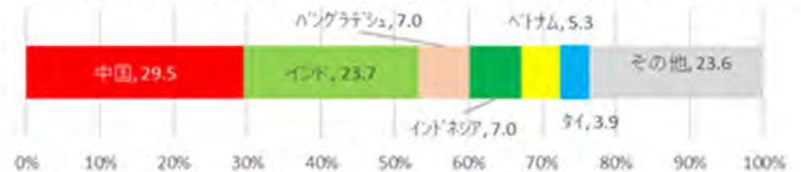
◎世界のコメ需給

（単位：百万精米トン）

年 度	2019/20	2020/21 （見込み）	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	497.6	503.5	505.5	—	0.4
消 費 量	496.4	505.4	513.4	—	1.6
輸 出 量	43.4	46.4	46.5	—	0.1
輸 入 量	42.3	44.0	44.2	—	0.6
期末在庫量	177.8	175.9	168.0	—	▲ 4.5
期末在庫率	35.8%	34.8%	32.7%	—	▲ 2.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 May 2021）

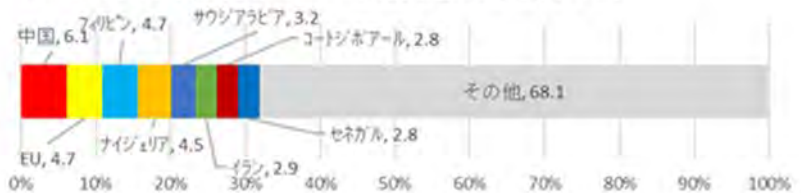
○ 2021/22年度 世界のコメの生産量（505.5百万トン）（単位：%）



○ 2021/22年度 世界のコメの輸出量(46.5百万トン)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸入量(44.2百万トン)



（２）国別のコメの需給動向

< 米国 >

【生産動向】米国農務省（USDA）によれば、2021/22 年度の生産量は、対前年度比 10.7%減の 6.5 百万トンの見込み。このうち、中・短粒種の生産量は全体の約 25% を占める。生産量の減少について、長粒種はとうもろこしと大豆の価格上昇による作付の減少、中・短粒種は前年秋の降水量不足や平年を下回るシェラネバダ山脈の積雪により、カリフォルニア州の灌漑用水の不足が要因とみられている。同「Crop Progress」(2021.5.17)によれば、主要生産 6 州の 5 月 16 日現在の作付進捗率は 87% で過去 5 年（2016-2020 年）平均（81%）より 6 ポイント進展しているが、発芽進捗率は同平均（64%）より 1 ポイント低い 63%となっている。一方で、主要 6 州の作柄は、やや良から良が 74%となっており、対前年度同期の 63%を上回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、消費量は対前年度比 1.4%減の 5.0 百万トンの見込み。輸出量は対前年度比 3.5%減の 2.8 百万トンの見込み。生産量の減少に加えて、特に米国産長粒種の価格が他の輸出国に比べて高いことから輸出競争力が良いことが要因と見られる。輸入量は、対前年度比 8.0%増の 1.2 百万トンの見込み。

同「Rice Outlook」（2021.5.14）によれば、5 月 11 日時点の地中海向けカリフォルニア米（1 等、碎米 4 %混入）の価格は 4 月 6 日時点と変わらず 945 ドル/トン。一方、5 月 11 日時点の長粒種の価格については、イラク向け長粒種（2 等、碎米 4 %混入）は 4 月 6 日時点より 5 ドル上昇して 630 ドル/トン、中南米及びメキシコ向け精米も 4 月 6 日時点より 5 ドル上昇して 555 ドル/トンとなっている。

コメー米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米のコメ生産に占める生産シェアは約 2 割

（単位：百万精米トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	5.9	7.2	6.5	—	▲ 10.7
消 費 量	4.6	5.0	5.0	—	▲ 1.4
輸 出 量	3.0	2.9	2.8	—	▲ 3.5
輸 入 量	1.2	1.1	1.2	—	8.0
期末在庫量	0.9	1.4	1.3	—	▲ 4.4
期末在庫率	12.0%	17.2%	16.8%	—	▲ 0.4

（参考）

収穫面積(百万ha)	1.00	1.21	1.08	—	▲ 10.7
単収(もみt/ha)	8.38	8.54	8.57	—	0.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (12 May 2021)

<インド>

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は対前年度0.8%減の120.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は対前年度比0.5%増の107.0百万トンの見込み。

USDAによれば、2021/22年度の輸出量は対前年度比6.3%減の15.0百万トンとなる見込み。前年度に次いで史上2番目の高水準となる。

インド商工省によれば、2020年4月から2021年2月の輸出量累計は15.3百万トンで前年同期（7.3百万トン）と比べ1.8倍。輸出量のうち4.2百万トンが高級品質のバスマティ米で、11.1百万トンが非バスマティ米である。輸出量は、前年度対比でバスマティ米、非バスマティ米とも増加しているが、非バスマティ米の伸びが大きい。とうもろこしの価格上昇から、飼料向けのコメの輸入需要が増加していることも背景にあるとみられる。

USDAの「Rice Outlook」（2021.5.14）によれば、インド産米（碎米5%混入）の5月11日時点の価格は4月6日時点よりも15ドル安い395ドル/トンであり、依然としてアジアの他の輸出国よりも競争力が高い。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ（小麦）の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

（単位：百万精米トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	118.9	121.0	120.0	(122.0)	—	▲ 0.8
消費量	106.0	106.5	107.0	(107.2)	—	0.5
輸出量	12.5	16.0	15.0	(14.2)	—	▲ 6.3
輸入量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	—	—
期末在庫量	29.9	28.4	26.4	(28.0)	—	▲ 7.0
期末在庫率	25.2%	23.2%	21.6%	(23.1%)	—	▲ 1.5
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.66	44.00	44.00	(44.75)	—	—
単収(もみt/ha)	4.08	4.13	4.09	(2.73)	—	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 May 2021)

IGC「Grain Market Report (29 April 2021)」(単収は精米t/ha)

< 中国 >

【生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、対前年度比0.5%増の149.0百万トンの見込み。USDAの「Rice Outlook」（2021.5.14）によれば、コメの単収が史上最高の7.1トン/ヘクタールになる見込み。

中国糧油情報センター（2021年5月7日）によれば、4月22日現在、2021/22年産度の二期作早稲の作付進捗率は83%で、一期作稲の育苗率は75.6%。USDAの「Rice Outlook」（2021.5.14）によれば、降水量と土壌水分量は二期作の早稲と晩稲共に好条件であった模様。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、対前年度比3.9%増の156.0百万トンの見込み。

USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前年度と同じ2.4百万トンの見込み。2021/22年度の輸入量は、2021/22年度産の記録的な豊作見込みと膨大な在庫輸入量の減少により対前年度比15.6%減の2.7百万トンの見込み。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報」（2021年4月）によれば、国内産米の価格は穏やかに下落。米の消費は低迷が続いている一方、精米業者の在庫は充分で、精米工場の稼働率は比較的低く、仕入れ意欲が弱いことから前期より早稲インディカ粳価格は横ばい、中晩稲インディカ粳価格は下落した。ともに、前年同期よりは上昇した。ジャポニカ粳価格については黒竜江省での粳の最低買付価格政策の実施期間が終了し、春耕を迎え農家の資金需要が増加し、余剰在庫の販売意欲が高まりやや下落した。また、国際米価格が下落し続けており、輸入米の価格優位性が高まったことで輸入量が増加し国内米価格の上昇を抑えた。

同月報によれば、1～3月の輸入も輸出も増加しており、輸入は1.5百万トンで前年同期比1.6倍、輸出は0.7百万トンで前年同期比26%増。輸入はパキスタン、ミャンマー、ベトナム、タイ、インドの順に多く、輸出は韓国、トルコ、シエラレオネ、シリア、パプアニューギニアの順に多い。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位：百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	146.7	148.3	149.0	(149.0)	—	0.5
消費量	145.2	150.2	156.0	(148.4)	—	3.9
輸出量	2.6	2.4	2.4	(2.6)	—	0.0
輸入量	2.6	3.2	2.7	(2.6)	—	▲ 15.6
期末在庫量	116.5	115.4	108.7	(113.0)	—	▲ 5.8
期末在庫率	78.8%	75.6%	68.6%	(74.8%)	—	▲ 7.0
(参考)						
収穫面積(百万ha)	29.69	30.08	30.00	(30.20)	—	▲ 0.3
単収(もみt/ha)	7.06	7.04	7.10	(4.93)	—	0.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2021)

IGC「Grain Market Report (29 April 2021)」(単収は精米t/ha)

< タイ >

【生育・生産動向】

USDAによれば、2020/21年度(2021年1月～同年12月)の生産量は、18.8百万トンと対前年度比6.2%の増加見込み。

2021/22年度(2022年1月～同年12月)の生産量は、対前年度比3.6%増の19.5百万トンの見込み。2年続けての乾燥により生産量が減少していたが、この春、2021年終盤から2022年初頭にかけての収穫に必要な十分な降水量があり、作付面積を増加させる見通し。

【貿易情報・その他】

USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、対年度比8.3%増の6.5百万トンの見込みとなり、ベトナムの輸出量(6.3百万トン)を上回り、世界第2位のコメ輸出国となる見通し。2021/22年度のコメの増産及び前年度の輸出向けのコメ在庫の積み残しにより輸出余力があると見られる。タイ米輸出協会によれば、2021年1月から3月までの輸出量は、前年同期比23.0%減少の113.2万トン。輸出先国は、米国(15.7万トン)、南アフリカ(13.4万トン)、中国(9.8万トン)の順となっている。

同「Rice Outlook」(2021.5.14)によれば、5月10日現在のタイ産米(長粒、2等丸米)の輸出価格は4月5日時点と同じ490ドル/トンとなっており、ベトナム産米(長粒、碎米5%混入)よりも低価格となっている。

コメ・タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	17.7	18.8	19.5 (20.1)	—	3.6
消 費 量	12.3	12.6	12.9 (11.9)	—	2.4
輸 出 量	5.7	6.0	6.5 (7.5)	—	8.3
輸 入 量	0.3	0.2	0.2 (0.3)	—	—
期末在庫量	4.0	4.4	4.7 (6.5)	—	6.8
期末在庫率	22.1%	23.7%	24.3% (33.6%)	—	0.6

(参考)

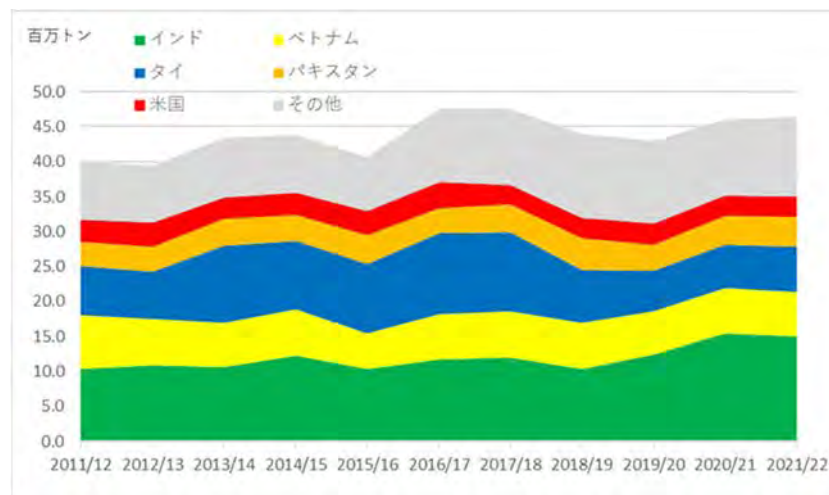
収穫面積(百万ha)	9.89	10.40	10.50 (10.63)	—	1.0
単収(もみt/ha)	2.70	2.74	2.81 (1.89)	—	2.6

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 May 2021)

IGC「Grain Market Report (29 April 2021)」(単収は精米t/ha)

図：世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



出典: USDA「PS&D」(2021.5)をもとに農林水産省で加工

<ベトナム>

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度(2021年1月～2021年12月)の生産量は、前年度と変わらず27.1百万トンの見込み。2021/22年度(2022年1月～2022年12月)の生産量は、対前年度比0.7%減少の26.9百万トンの見込み。USDAの「Rice Outlook」(2021.5.14)によれば、2021/22年度はコメの作付面積が5万ヘクタール減少し5年連続の減少となる。利益率の高い作物への転換や都市化が要因と見られる。

ベトナム統計総局は4月中旬現在で、冬春作の作付面積は全体で300万ヘクタール(前年同期比0.6%減少)、そのうち北部地域では110万ヘクタール(前年同期比1.8%減少)、南部地域では190万ヘクタール(前年同期比0.4%減少)に作付けられたとしている。現在、冬春作の収穫が終盤を向かえている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、対前年度比3.7%増の6.4百万トンの見込み。また2021/22年度の輸出量は対前年度比1.6%減少の6.3百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2021年1月から4月の間のコメの輸出量は197.3万トン。

USDA「Rice Outlook」(2021.5.14)によれば、ベトナム産米(長粒、碎米5%混入)は冬春作の収穫により4月に下落したままで、5月11日時点の価格は4月6日時点と同じ495ドル/トンであり、引き続きタイ産米(長粒、2等丸米)よりも高値である。

コメベトナム

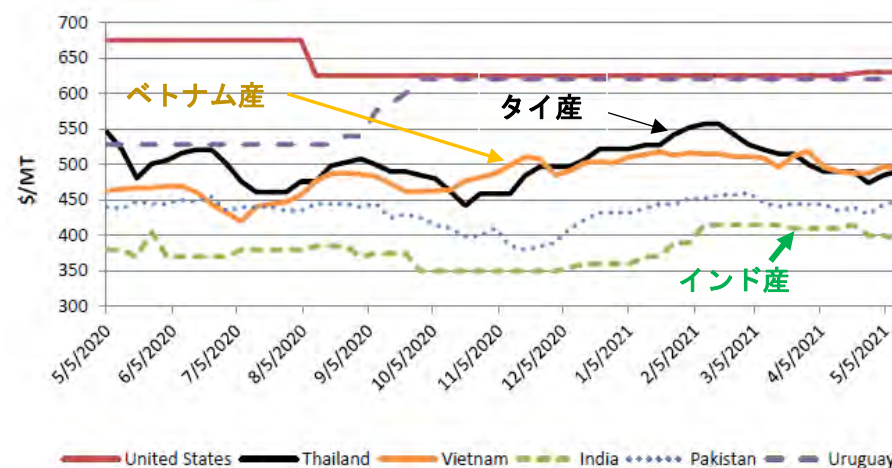
北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	27.1	27.1	26.9 (28.3)	—	▲ 0.7	
消 費 量	21.3	21.3	21.2 (22.4)	—	▲ 0.2	
輸 出 量	6.2	6.4	6.3 (6.5)	—	▲ 1.6	
輸 入 量	0.4	0.5	0.5 (0.6)	—	—	
期末在庫量	1.2	1.1	1.0 (3.1)	—	▲ 8.8	
期末在庫率	4.3%	4.1%	3.7% (10.7%)	—	▲ 0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.38	7.35	7.30 (7.45)	—	▲ 0.7	
単収(もみt/ha)	5.88	5.90	5.90 (3.80)	—	—	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2021)
IGC「Grain Market Report (29 April 2021)」(単収は精米t/ha)

図: 長粒種の FOB 価格の推移



資料: USDA「Grain: Markets and Trade」(2021.5.12)

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

＜米国農務省（USDA）の見通し＞ 2021/22 年度

生産量 前年度比  前月比 **—**

・ブラジル、米国、アルゼンチン等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

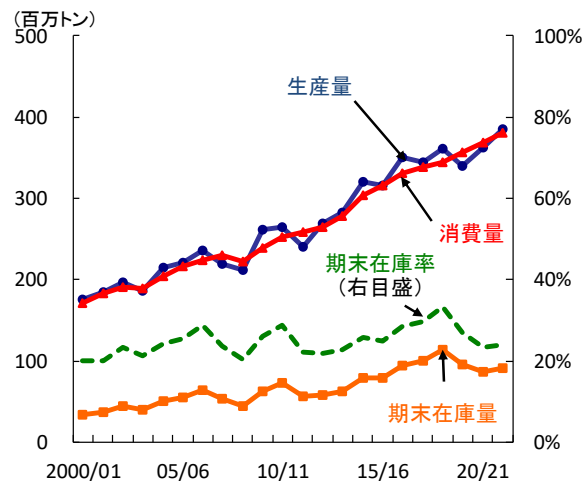
消費量 前年度比  前月比 **—**

・中国等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 **—**

・米国等で減少も、ブラジル等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比  前月比 **—**



資料：USDA「PS&D」（2021.5.12）をもとに農林水産省で作成

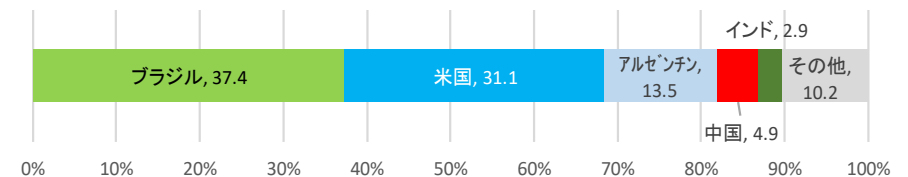
◎ 世界の大豆需給

(単位：百万トン)

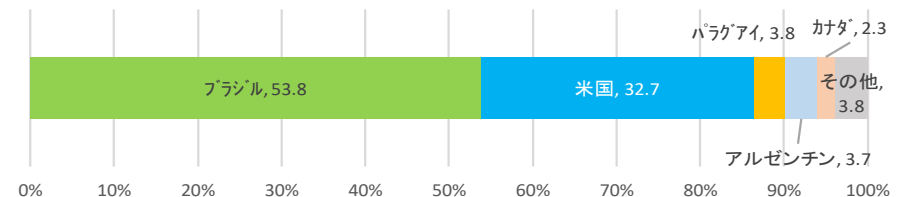
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	339.4	363.0	385.5	—	6.2
消費量	357.4	369.3	380.8	—	3.1
うち搾油用	311.5	322.4	331.7	—	2.9
輸出量	165.1	171.4	172.9	—	0.9
輸入量	165.0	167.8	172.7	—	2.9
期末在庫量	96.5	86.6	91.1	—	5.3
期末在庫率	27.0%	23.4%	23.9%	—	0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 May 2021）

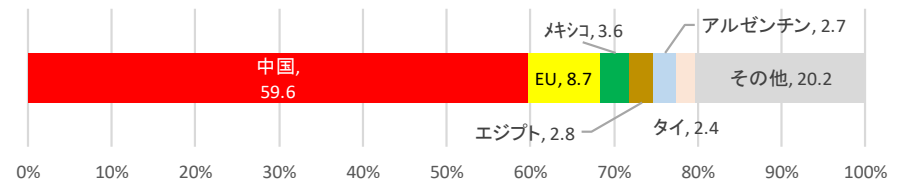
○ 2021/22 年度の世界の大豆の生産量 (385.5 百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸出量 (172.9 百万トン)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸入量 (172.7 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2021/22 年度の実産量は、主に大豆価格の上昇を背景とする収穫面積の増加から前年度より 6.5%増の 119.9 百万トンとなり、史上最高の見込み。「Crop Progress」(2021.5.17)によれば、4月中旬の寒波の影響を受けた作付けは、4月中旬以降の気温の上昇により進展し、主要 18 州における作付け進捗率は 61%と、前年度同期（51%）及び過去 5 年平均（37%）より進んでいる。発芽率も 20%と、前年度同期（16%）及び過去 5 年平均（12%）より進んでいる。

【需要動向】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、大豆由来のバイオ燃料需要の増加により搾油用需要を中心に増加することから、前年度より 2.1%増の 63.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2021/22 年度の輸出量は、期首在庫の減少に伴う供給量の減少及び国内消費の増加に伴い、史上最高の輸出量となった前年度より 9.0%減の 56.5 百万トンの見込み。

なお、輸出検証高（2021 年 1 月 7 日～5 月 6 日）は、16.6 百万トンであり、内訳は中国（7.4 百万トン）、メキシコ（1.7 百万トン）、エジプト（1.3 百万トン）、インドネシア（0.8 百万トン）の順。

2021/22 年度の期末在庫量は、前年度より 17.2%増の 3.8 百万トン。期末在庫率は 3.2%で依然として低水準となっている。

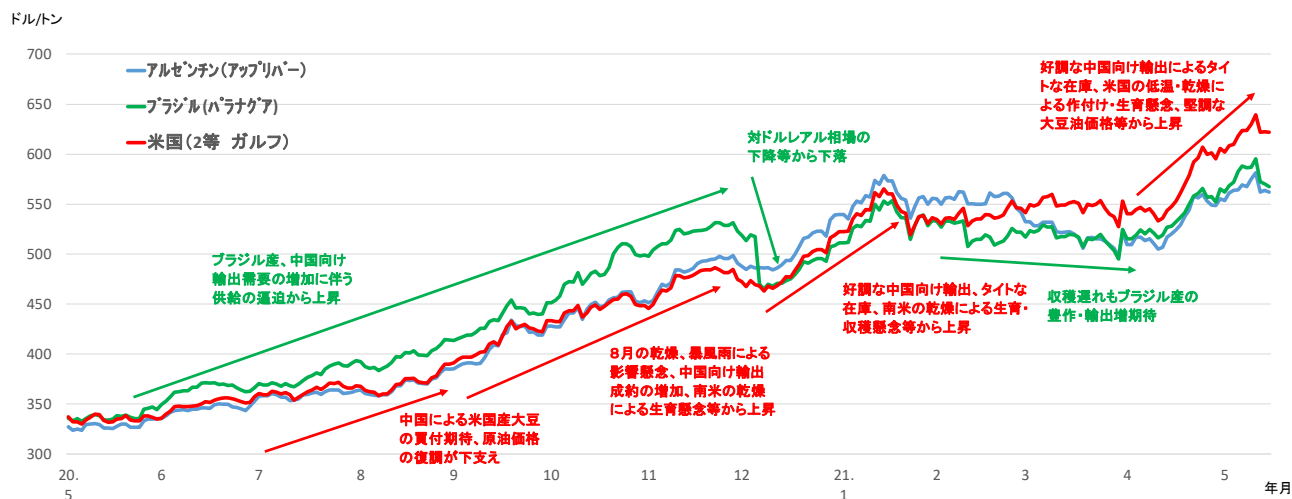
大豆－米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	96.7	112.6	119.9	—	6.5
消 費 量	61.8	62.5	63.8	—	2.1
うち搾油用	58.9	59.6	60.6	—	1.6
輸 出 量	45.8	62.1	56.5	—	▲ 9.0
輸 入 量	0.4	1.0	1.0	—	—
期末在庫量	14.3	3.3	3.8	—	17.2
期末在庫率	13.3%	2.6%	3.2%	—	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.33	33.31	35.09	—	5.3
単収(t/ha)	3.19	3.38	3.42	—	1.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、大豆価格の上昇やリアル安を背景とする収穫面積の増加から、前年度より5.9%増の144.0百万トンとなり、史上最高の見込み。本年9月以降に作付けが開始される。なお、2020/21年度の収穫は、収穫期の前半は雨がちな天候で収穫作業が遅れたものの、3月以降乾燥傾向が続いたことで、南部のリオグランデス州等の一部を除き、ほぼ終了している。

また、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.5.12)によれば、2020/21年度の実生産量は、前年度より8.5%増の135.4百万トンで史上最高の見込み。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、搾油用消費量の増加から、前年度より1.9%増の50.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の増加と世界的な需要増から前年度より8.1%増の93.0百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年4月の輸出量は17.4百万トンで、前年同月(14.9百万トン)に比べ17%増。2021年1～4月の輸出量は33.1百万トンで、前年同期に比べ4%増となっている。内訳は、1位が中国で23.9百万トン、2位がスペインで1.2百万トンとなっている。

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2021年2月以降大豆の収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培。

2020/21年度	2020年												2021年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
夏とうもろこし	リオグランデス州等												作付 4.3(百万ha)								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 19.9百万ha												作付 15.5(百万ha)								
大豆	マトグロッソ州、パラナ州等												作付 38.5(百万ha)								
													収穫 24.7(百万t)								
													収穫 81.7(百万t)								
													大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし播種								

資料：CONAB穀物レポート(2021.5.12)

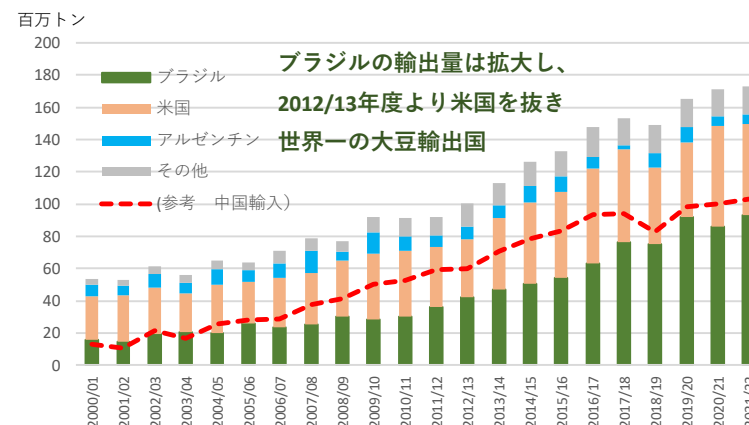
大豆—ブラジル

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	128.5	136.0	144.0 (139.0)	—	5.9
消費量	48.7	49.4	50.4 (49.3)	—	1.9
うち搾油用	46.0	46.8	47.7 (46.3)	—	2.0
輸 出 量	92.1	86.0	93.0 (88.3)	—	8.1
輸 入 量	0.6	0.7	0.7 (0.1)	—	▲ 7.1
期末在庫量	20.7	22.0	23.3 (3.5)	—	5.9
期末在庫率	14.7%	16.3%	16.3% (2.5%)	—	0.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	36.90	38.60	40.40 (39.40)	—	4.7
単収(t/ha)	3.48	3.52	3.56 (3.53)	—	1.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2021)
IGC「Grain Market Report」(29 April 2021)

図：世界の大豆輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.5.12)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積及び単収の増加により、前年度より10.6%増の52.0百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所(2021.5.20)によれば、収穫率は85%で、過去5年平均より3ポイント進み、最近の好天により急速に収穫作業が進展した。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、搾油用消費量の増加から、前年度より2.4%増の49.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量は増加するものの、国内消費量も増加することから伸びず、前年度と同じ6.4百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021年1～3月の輸出量は3.4万トンで、収穫遅れにより輸出可能な大豆がないため、前年同期より82.7%減。内訳は、1位がチリ2.3万トン、2位がウルグアイ0.7万トン、3位がブラジル0.4万トンとなっている。

アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月から2020年3月にかけて、大豆、大豆油、大豆粕の輸出税を約25%から最大33%へ引き上げ、現在も継続中。

大豆ーアルゼンチン

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	48.8	47.0	52.0 (50.0)	—	10.6
消 費 量	45.9	48.7	49.9 (47.6)	—	2.4
うち搾油用	38.8	41.5	42.5 (40.8)	—	2.4
輸 出 量	10.0	6.4	6.4 (8.0)	—	-
輸 入 量	4.9	4.7	4.7 (4.9)	—	-
期末在庫量	26.7	23.4	23.9 (3.3)	—	2.1
期末在庫率	47.8%	42.4%	42.4% (6.0%)	—	0.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.70	16.74	17.20 (17.35)	—	2.7
単収(t/ha)	2.92	2.81	3.02 (2.88)	—	7.5

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(12 May 2021)

IGC「Grain Market Report」(29 April 2021)

写真: 北部サンタフェ州の大豆(第2期作)の
収穫風景
(4月29日撮影)



< 中国 >

【生産・生育状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前年度より3.1%減の19.0百万トンの見込み。なお、中央气象台（2021.5.11）によれば、2021/22年度の作付けは、4月以降各地で開始され、5月6日現在、播種は23%で終了。黒竜江省等東北地区の播種作業は着々と進んでいる。

【需給動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、搾油マージンの悪化とASFから回復途上にある養豚向けの飼料用需要の代替等により過去10年間に比べて消費量の増加ペースはペースダウンするものの、搾油用需要の増加から、前年度より4.5%増の119.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前年度より3.0%増の103.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～3月の輸入量は21.2百万トンと、前年同期比で19.0%増。内訳は、米国産19.1百万トン（90%）、ブラジル産1.3百万トン（6%）。ブラジル産大豆の収穫・出荷遅れにより、米国産の輸入が大半を占めた。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報4月号」によると、4月、大豆製品の代替供給が増加し、国産大豆の需要と取引業者の仕入れ意欲は低迷した。黒竜江省等東北地区の農家は播種期を迎えて、大豆の販売意欲が強く、4月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は小幅に下落したものの、6,080元／トンで依然高水準である。一方、4月の国際価格（山東省の輸入大豆価格）は4,120元／トンと前月から小幅に低下した。

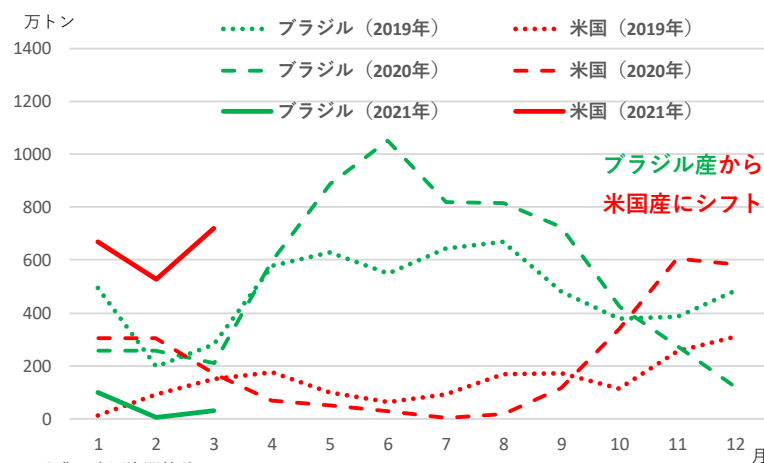
大豆－中国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	18.1	19.6	19.0 (19.5)	—	▲ 3.1
消 費 量	109.2	114.5	119.7 (121.8)	—	4.5
うち搾油用	91.5	96.0	100.0 (102.6)	—	4.2
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	—	—
輸 入 量	98.5	100.0	103.0 (103.8)	—	3.0
期末在庫量	26.8	31.8	34.0 (34.9)	—	6.9
期末在庫率	24.5%	27.7%	28.4% (28.6%)	—	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.30	9.87	9.60 (9.73)	—	▲ 2.7
単収(t/ha)	1.95	1.99	1.98 (2.01)	—	▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2021)
IGC「Grain Market Report」(29 April 2021)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、単収は前年度から低下するものの、収穫面積が増加することから、前年度より0.8%増の6.4百万トンの見込み。

サスカチュワン州クロップレポート（2021.5.20）によれば、大豆の作付け率は53%で、温暖・少雨傾向が土壌水分量を不足させていたが、最近の降雨が作付けを支援した。

なお、カナダ農務農産食品省（AAFC）（2021.5.20）によれば、2021/22年度の生産量は、カナダ西部では土壌水分不足の懸念や菜種等の競合作物も価格が魅力的なことから作付面積の増加は抑えられるものの、高い大豆価格に支えられ、主産地のカナダ東部オンタリオ州を中心に作付面積が増加するものの、前年度の高単収より低い過去5年平均単収を前提にすると、前年度より2.1%減の6.2百万トンの見込み。カナダ西部では、やや土壌水分不足となっており、今後の生育への影響が懸念される。

また、カナダ統計局「Principal field crop areas, March 2021」（2021.4.27）によれば、2021/22年度の作付意向面積は、世界的な大豆需要の高まりに伴う価格上昇を背景に前年度より5.5%増の2.1百万ヘクタールの見込み。最大の生産州であるオンタリオ州では、前年度より2.0%増の1.2百万ヘクタールの見込み。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前年度と同じ2.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前年度より9.1%減の4.0百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会（Canadian Grain Commission）によれば、2020/21年度（2020年8月～2021年7月）の2020年8月～2021年3月の輸出量は349.7万トンで、国別では、イラン（79.7万トン）、イタリア（38.6万トン）、アルジェリア（35.6万トン）の順。

大豆－カナダ

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.1	6.4	6.4 (6.2)	—	0.8
消 費 量	2.5	2.7	2.7 (2.3)	—	—
うち搾油用	1.7	2.0	2.0 (1.8)	—	—
輸 出 量	3.9	4.4	4.0 (4.5)	—	▲ 9.1
輸 入 量	0.3	0.4	0.4 (0.4)	—	14.3
期末在庫量	0.7	0.3	0.3 (0.2)	—	19.6
期末在庫率	11.3%	3.8%	4.9% (3.3%)	—	1.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.27	2.04	2.20 (2.16)	—	7.8
単収(t/ha)	2.71	3.11	2.91 (2.88)	—	▲ 6.4

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(12 May 2021)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(20 May 2021)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2021/22年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	21年6月～22年5月	21年9月～22年8月	21年8月～22年7月	21年9月～22年8月
カナダ	21年8月～22年7月			21年8月～22年7月
豪州	21年10月～22年9月		22年3月～23年2月	
EU	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		
中国	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月
ロシア	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		21年9月～22年8月
ブラジル		22年3月～23年2月	22年4月～23年3月	21年10月～22年9月
アルゼンチン	21年12月～22年11月	22年3月～23年2月		21年10月～22年9月
タイ			22年1月～12月	
インド	21年4月～22年3月		21年10月～22年9月	
ベトナム			22年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2021/22年度は、米国の小麦では2021年6月～2022年5月、ブラジルのとうもろこしでは2022年3月～2023年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が 2021 年 5 月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下のとおりです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020年1月31日付けでEUを離脱しました。英国の小麦に関する情報についてはEUの小麦のコーナーで取り扱います。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-6744-2368（直通）
------------	---